

<問>市の計画にある災害用トイレの目標備蓄数に対して、現状の備蓄が足りていないが、市の対応は。

<答>令和6年度もマンホールトイレを整備する。災害用トイレの確保は、国のガイドラインや都の計画を踏まえ検討する。各家庭へ備蓄に努めてもらうよう啓発する。

＊災害時にトイレが不足する可能性は高い。各家庭でも備蓄を！

<問>災害時に処理が必要な、し尿の量の推計は。

<答>推計していないため、今後実施する。

＊推計しないと、必要な災害用トイレの備蓄数もはっきりしないまま。推計すると明言したことを評価。

<問>能登半島地震を受け、水道管のうち、送水管の二重化の計画を前倒せないか。

<答>前倒しするには、他の耐震化工事等を先送りする必要がある。現計画を着実に進めるのが最良である。

＊市民の負担する水道料金を、しっかりとインフラ強化に充当してもらいたい。

<問>能登半島地震を受け、衛星通信サービスの導入に関する市の見解は。

<答>災害に備えて多様な通信手段を確保していくことは重要である。多様な通信手段の確保に努める。

＊都は全区市町村に対してモバイル衛星通信機器の配備を行う予算を令和6年度当初予算に計上。

令和6年度予算

3月12～14日に予算審査特別委員会があり、令和6年度一般会計・特別会計の予算について審査しました。予算はPDCAサイクルの「P(プラン)」にあたります。これまで行われた決算審査や一般質問を経て、予算が市民のためのものとなっているかを判断します。各議員による質疑を経て、全予算案が成立しました。

【質疑項目】

- ・企業の業績拡大や株価上昇による歳入への影響
- ・普通交付税の算定方法変更による歳入への影響（「こども子育て費」など）
- ・LINEの市公式アカウントの活用
- ・業務効率化ツール(RPA)の活用
- ・企業支援事業や創業支援事業の検証
- ・市道無電柱化事業の財源
- ・小学校体育館冷暖房空調設備設置の財源
- ・上下水道のインフラ更新・強化
- ・今後の財政の見通し

等々（一部抜粋して掲載しています。）

【予算の特徴(抜粋して紹介)】

・産後ケア事業の拡充

出産後、お母さんの体調や育児での困りごと・心配ごとについて、助産師のサポートが受けられます。令和5年度までの事業と比べて、**利用者負担額が減額**され、**利用期間と利用回数**が**拡充**されます。

・小学校体育館冷暖房空調設備の設置

市内小学校体育館に、冷暖房空調設備が設置されます。児童の教育環境の改善や、災害時における避難所としての機能強化が実現します。また、質疑の結果、都補助金によって負担が半額程度に抑えられる見込みであることがわかりました。

その他



八雲祭に、囃子保存会の一員として参加しました。羽村の伝統・文化を次世代につなげていきたいと思います。（祭りに夢中で、紙面に載せられるような写真の撮影を失念していました。）



街頭演説を通じて、市民の皆様へ、羽村市の実施する事業や市政に関する情報を発信しています。羽村市の現状を皆様と共有し、一緒に今後の羽村市のことを考えていきたいと思っています。